

鬼	北上市立	館
	の	
だ	よ	り
第6号		



### 百人いれば百の鬼

5月5日の子どもの日、畳一枚分ほどもある大きなボードに、自由に鬼を描いてみようという催しが、エントランスホールを会場に開かれました。この催しは、鬼っこわんぱく講座のイベントで、講師に、鬼を題材にした木彫や木版画の制作に取り組んでいる群馬県在住の絵本作家・野村たかあきさんをお迎えして行われました。

それぞれが、それぞれの鬼を大きな画面にのびのびと描き出し、あっという間に描いた人の数だけ鬼が誕生しました。

それに触発されて、野村さんも“和気あいあい”を即興で仕上げて下さり、会場は大いに盛り上がりました。

# 鬼と30年

よみがえる日本の鬼

平賀昭士



## 思い出の思い出

東京オリンピックの開かれた昭和39年以降の高度経済成長の波は、バイクや自転車、背広を求める青年達を都市に吸い上げていきました。兵隊になればまんまが食える時代と構図は似ていたのです。

昭和33年、農業を守り豊かなまちをめざして青年団活動が始められました。「鎮守の祭」復活をはじめ、生活記録運動や青年演劇、郷土芸能の復活伝承、町民文集・公民館建設運動など絶え間なく活動を行ってきました。そのような中、第15回全国青年大会郷土芸能の部において、岩崎地区の青年会「白鳩クラブ」の部員が岩崎鬼剣舞を演じ日本一に輝いたのです。青年のやる気づくりは、青年団の実践活動に加え、青年活動の先進地研修や青年の家研修の他、青年問題研究集会など農業や酪農、郷土芸能に取り組む青年達によって確実に大きく根を張っていったのです。

そうした土台の上に昭和63年、まちの資源を生かし過疎の脱却を願って第4次和賀町総合開発計画をつくり、鬼と平和の町づくり等5つの重点プロジェクト事業を推進したのです。その後、「ふるさと創生

1億円」の用途について町民からアイデアを募集し、「鬼と平和の里づくり」事業として結んで、鬼の研究、物産の研究視察、まちづくりの仕組み等の研究を続ける一方で、「鬼と平和の里づくり推進委員会」を設置し鬼の館建設計画や展示小委員会を設け、行政内部ではふるさと創生推進本部を設置、民俗資料館の建設計画を鬼の館建設計画へ変更、場所の再確保、再整備などを行い、平成6年6月1日全国でも類い希な鬼の博物館・北上市立鬼の館の開館となったのです。

## 全国鬼サミットと町おこし

平成7年8月7～9日、第2回全国鬼サミットが北上市において全国15市町村が参加して開かれ、各地の鬼に関係したまち・むらおこしの事例が紹介されました。

第1回全国鬼サミットの開催地である京都府大江町では、大江山の酒呑童子伝説をもとに、鬼瓦を中心とした日本の鬼の交流博物館を建設、また世界鬼学会をつくり全国へ鬼ネットを拡大しています。

第3回全国鬼サミットは平成8年9月7日～8日、長野県鬼無里村で開かれました。松巖寺本堂を会場にして、鬼女紅葉の法要があり、その後記念講演が行われました。続いて戸谷庄一鬼無里村長の歓迎のあいさつ、参加自治体の事例発表、歓迎レセプションがあり、翌日の商工まつりには村民が沢山集まりました。歓迎・見送り共に心のこもったものでした。併せて感心したことは、歴史民俗資料館・山国文化伝承館・山村文化伝習館を併設し、その向かいに村直営の体験館とお土産屋を兼ねた施設をつくり誘客を図っていたことです。

平成9年度の第4回全国鬼サミットは鳥取県溝口



町が立候補されました。鬼伝説をもとに本をまとめられ、鬼の電話ボックス、鬼の公衆トイレ、鬼の館文化ホール、鬼ミュージアムを作られたということです。「鬼の館」のネーミング使用は京都府亀岡市の湯の花温泉内の鬼の館資料館が北上市に次いで2館目、溝口町の鬼の館文化ホールは3館目という訳です。



▲亀岡市・湯の花温泉の「鬼の館」

今後各地でこのような施設が生まれてくると思いますが、地域民が地域資源を掘り起こし、地域や世界全体の幸福のために取り組む姿勢が非常に大切なことであると考えます。鬼の館の場合も大きな事業は総合開発計画のように5年くらい先を見通し、企画・発表の機会を整える必要がある訳です。

平成9年度、当館では、秋田自動車道開通を視野にナマハゲの企画展を開催しますが、地元で伝わる鬼剣舞や修験道、アテルイなど研究テーマは豊富ですし、鬼の文芸・鬼の芸能・鬼の民俗等様々の研究分野に加え、地元岩崎公民館との連携・整備、伝承館の併設など地域課題を整理し乗り越える努力も重要となってくるのです。

### 皆に支えられて

鬼の館が開館した平成6年はかつて経験したことのない暑さが続いたため、植栽したばかりの木と芝に散水しなければなりません。当時鬼の館には道具がなかったのですが、そこは30年来の青年団の知友である鬼剣舞連中とその仲間たちの協力があり、毎朝5時、汗と水でびしょ濡れになりましたが清々しいものでした。平成7年度以降は、様々な方々から桜やイチイの木等をいただき、また岩手銀行みどりの基金の植栽事業も受けることができて日に日に風景を整えています。

さらに、地域の方々からもご協力をいただいて、鬼の館正面の県道脇に花を植え、鬼の館入口までも



美しい花を咲かせてくれています。清掃作業の申し出や草刈り、散水もお手伝いいただいたりと本当に頭が下がる思いです。

展示・館内の充実とあわせ、30年たっても多くの人々に満足してもらえる館づくりとそのための努力を多くの人々に支えられながら続けて行きたいと思っています。

(ひらか あきし：鬼の館主幹兼館長補佐)

花ばあちゃん  
小田島保子  
さん



植栽のすんだ  
鬼の館庭園



平成8年度

## 下半期(10月～3月)の活動

### 企画展示

企画展2・異形の神 カマド神展

10/13(日)～11/24(日)

期間中入場者 5,939人

展示図録[B5判・23P 頒価800円/残部有]

平成8年度新収集資料展

3/25(火)～5/5(月)

8年度中に寄贈を受けるかまたは購入した新資料約30点を展示公開。

### 芸能公演

相去鬼剣舞 10/27(日)

演目：一番庭、刀剣舞の狂い、二人加護、二番庭、一番庭の狂い、宙返り

岩崎鬼剣舞 3/23(日)

演目：一番庭、一番庭の狂い、三番庭、三番庭の狂い、刀剣舞、刀剣舞の狂い、

### 教育普及活動

◇鬼っこわんぱく講座(小学生対象)

⑤10/26 ⑥11/9 ⑦1/25 ⑧2/2

後期4回は「鬼剣舞体験」をテーマに岩崎鬼剣舞の方々から直々に鬼剣舞を習い、にっぽん鬼ッズフェスティバルにてその成果を発表しました。

◇鬼学講座(一般成人対象)

④10/20「中国の鬼」

神奈川大学助教授 廣田律子先生

⑤11/23「受講生による研究発表会」

岩淵道子「大竹丸伝説と金」

阿部和夫「現代文学の鬼」

⑥1/15～16

「移動研修～三陸町にスネカを訪ねて」

### 管理運営

◇防火訓練 3/26

### 共催事業

◇にっぽん鬼ッズフェスティバル火入れ式 2/2

### ■平成8年度新資料(下半期)■

#### 寄贈

鬼剣舞面	2点	北上市村崎野	小菅和悦氏
鬼女紅葉絆天		長野県鬼無里村	鬼女紅葉太鼓保存会
魔除けのタラノキ	一組	山形県佐佐町	高橋寛一氏
ヤマハゲのつもの		秋田県秋田市	佐賀善美氏
竹笛	2点	秋田県秋田市	佐賀善美氏

ゴショグルマ 群馬県中里村 高橋 登美治氏  
オニノハ 一組 群馬県中里村 高橋 登美治氏  
計26点

前期の36点と合わせて62点の資料が新たに鬼の館資料に加わりました。大切に保存し、活用して参ります。ご協力ありがとうございました。

### 新資料から

#### 鬼の歯(おにのは)

40cm×7cm/材質・木(ヌルデ)

群馬県から長野県にかけての地域には、小正月の行事として、農作物の豊かな実りを祈願して様ざま



な予祝行事が行われてきました。予祝とは、新たな年の初めに、その年に望む実りを予めして見せる事によって、その魂に影響を与え、実現するという感染呪術的な行いです。

ことにも群馬県には、予祝のために削りかけの花や小さな農具などさまざまなモノ作りをするところが多く、この「鬼の歯」もその一つで、家の四角に一年中立てておき、魔除けとするものです。

「鬼の歯」は、小正月の新木(にいぎ・にゆうぎ)と同じ「魔除け」の意味をもって作られるもので、おにゆうぎ、おにいぎから、おにぎに転化して「鬼木」と称しているところもあり、「鬼の歯」は、その形状から歯と言いつわったのではないかと考えられます。

# 平成9年度のもよおし



◎企画展

第6回企画展

「百鬼やっほう展」～野村たかあき鬼の世界～

7月13日(日)～8月24日(日)

鬼を主題とした木版画や木彫作品を制作している群馬県在住の絵本作家・野村たかあきさんの作品をご覧ください。

「百いれば百の鬼」。自由な発想から生まれた楽しい鬼たちがみなさんをお待ちしています。お子さんと一緒にどうぞ。



第7回企画展

「小正月の来訪者」～秋田のナマハゲ・三陸のスネカ～

10月12日(日)～11月24日(月)

今年、秋田自動車道の北上西一湯田間が開通するにあたり、秋田の「ナマハゲ」に代表されるような、年の変わり目にわたくしたちを訪ね来る民俗神について考えます。

◎平成9年度新収蔵資料展 平成10年3月20日(金)～5月5日(火)  
9年度に新たに鬼の館に収蔵された資料を公開します。

◎講座

鬼学講座：テーマ「鬼の源流をもとめて」

6/29、7/26、9/7、10/12、11/9、  
2/13～14(全6回講座)

講義を中心に、移動研修、研究発表などを盛り込んだ充実した内容です。[対象・一般成人]

鬼っこわんぱく講座：テーマ「あつまれ鬼っこわんぱく隊」

5/5、6/14、7/20、8/5～7、  
9/12～13、10/19、11/16、12月、1月

創作活動や鬼剣舞体験、キャンプなど、土・日を中心とした活動です。[対象・小学生]

◎鬼の館芸能公演

4月から11月までの毎月第4日曜日

午後1時30分から・野外ステージにて

北上市内の鬼剣舞踊り組を中心にした芸能公演です。わかりやすい解説つき。

◎コレクション展示

テーマ展「世界の鬼たち」～カ丸コレクションより～

企画展示の前後に随時コレクション資料を公開します。9年度は、3回程度を予定しています。



※講座は申し込み制です。くわしい内容等は鬼の館(0197-73-8488)までお問い合わせ下さい。

●休館日●

4月 7、14、21(22～5/5は休みません)

5月 6、7(代休)、12、19、26

6月 2、9、16、23、30

7月 7、14、22、23(代休)、28

8月 4、11、18、25

9月 1、8、16、17(代休)、22、24、29

10月 6、13、14(代休)、20、27

11月 4、5(代休)、10、17、25、26(代休)、  
27～30(館内整理日)

12月 1、8、15、22、24、28～31(年末休館)

1月 1～4(年始休館)、5、12、16、19、26

2月 2、9、12、16、23

3月 2、9、16、23、24(代休)、30

## 鬼学ノート

## ナマハゲ・アマハゲ・ヤマハゲ

石川 貴洋

## はじめに

鬼の館の常設展示「春来る鬼」のコーナーにナマハゲの面が4面展示してあります。ナマハゲは年の変わり目に里びとを訪ね来る異形の神として、秋田県の男鹿半島がよく知られています。実は同様の行事が、岩手県の南三陸から青森県の沿岸、さらに新潟県の海沿いから能登半島まで分布していることがわかっています。その呼び名は、岩手県気仙<sup>けせん</sup>地方では「スネカ」、閉伊<sup>へい</sup>地方では「ナモミ」、青森県下北半島では「ナガメヘズリ」、山形県遊佐<sup>よさ</sup>地方では「アマハゲ」、能登半島では「アマメハギ」とまちまちです。また、地域によって訪ね来る日が大晦日のところや小正月のところなどの違いがあります。

このたび、たくさんのナマハゲ行事の中から何ヶ所か訪れる機会に恵まれ、その独特な風貌と信仰にふれることができました。

## 1. 男鹿市脇本・天神町地区のナマハゲ

男鹿市ではほとんど全市においてナマハゲが行われていますが、これら全てに決まった姿はなく、それぞれの地域によって少しずつ違いがあります。

男鹿市脇本の天神町地区では12月31日にナマハゲ行事が行われます。この地区ではナマハゲは男鹿の山に住む神様の使いであると言い、大平山からやってくるとも言われています。

大晦日の晩、午後6時30分頃になると地区の青年会の人達が国道101号線沿いの脇本城跡にまつられた稲荷神社の鳥居前に集合し、面、ケンデエと呼ぶワラで編んだ着衣、持物一式を並べて礼拝をし御神酒をいただきます。その後ケンデエを身に付け、面を持ちナマハゲとなって家々の訪問を始めます。この面はザル面で、竹の丸ザルを土台として、顔を紙粘土や紙を貼って作り、木製の角・牙をつけています。以前は鼻にイモを使ったこともあったということでした。面は行事の都度に作り替えるということではなく地域で保管されています。この面はすっぽり

とかぶるのではなく、ザルのふちに渡した角材を取っ手としています。手には包丁、手オケを持ちますが、ほかにオノやマサカリなども使われていた様子でした。

ナマハゲは二人一組で、それぞれ赤、緑(青)の面を持ち、先立ち人と数名の付添人とともに訪問します。この地区は約80戸あるので上と下の二手にわかれて訪れます。まず訪問前に先立ち人が訪問の旨を伝え、不幸があったり不都合の申し出がある家にはナマハゲは訪問しないことになっています。戸窓をたたいて音をたてたり、玄関で大声をあげてから家の中に入り、小さな子供には「泣く子は居ねえが、言うこと聞がね子は居ねがー」などと叫びながら、良い子でいるようにと訓戒を与え、主人から酒をすすめられ、付き人が餅や御祝儀をいただいて辞めます。家によってはナマハゲ膳を用意している家もあり、子どもたちはナマハゲがやって来ると恐ろしさに泣き出したり、親のいうことをきくことを約束したりします。いずれの家々でもナマハゲを快く迎え入れ送り出します。

全戸を廻り終えると、稲荷神社に戻り、鳥居や狛犬にケンデエを巻き付けて家路につきます。

## 2. 山形県遊佐町・鳥崎地区のアマハゲ

遊佐町最北部の日本海沿岸の地域は浦通<sup>うらどおり</sup>と呼ばれ、国道7号線沿いに女鹿、滝の浦、鳥崎の3集落が並んでいます。これらの集落は、男鹿のナマハゲによく似た「アマハゲ」が伝承されています。各集落のアマハゲは大筋で共通していますが、起源は不明で行事の日や習俗に多少の違いをみることができます。今回はその内の鳥崎集落を訪問しました。

鳥崎集落では1月6日にアマハゲ行事を行います。アマハゲが訪れるのは、鳥崎集落は16軒、少し離れた湯ノ田集落が12、3軒です。この行事はもとは旧正月に行われていて、旧12月31日の晩に訪れてくるものですが、現在は1月7日の七草を元旦に見立て、大晦である6日の晩に行っています。

アマハゲは海からやってくるといわれています。アマハゲ面は3面ありそれぞれ岩倉・笠森・水壺と呼ばれ、明治時代に造られ昭和25年頃に色を塗ったといわれています。この他に古面として2面が伝えられています。古面ももとは3面ありましたが、現在は2面だけが残っています。

6日の晩夕方6時すぎに、地区内にある三上<sup>みかみ</sup>神社

に保存会の人達が集まってきます。拝殿には数日前に作っておいた、ワラで編んだ着衣のケンダンが積んであります。濃紺の着衣に黒足袋、下駄ばき姿の11人の男性が、ケンダンを身に付け神殿に礼拝し、御神酒を頂きます。その後面をつけ、集落の南端の家から順に北端の家まで訪問した後、少し離れた湯ノ田集落にむかいます。11人は3面を交替で付け、他の人は太鼓打ちや鈴振りなどを行います。

訪問にあたっては、家の前で太鼓や鈴を打ち鳴らし、アマハゲ役の3人が「ホーウ、ホーウ」と声をだして家の中に入っていきます。家の中では問答などは行わず、子供達に訓戒めいたことを言います。また、子供をあやしたり老人の肩をもんだりしますが、これは近年から始まったと言う人もいます。そして太鼓や鈴を打ち鳴らし退出していきます。その時家人は御祝儀や餅、お酒を差し上げますが、餅を3個差し出し、アマハゲの持っている他家の餅1個をいただきます。このアマハゲの餅は神棚に供え、翌朝の七草がゆに入れて食します。こうすると病気にかからないと言われていました。

家々を廻り終わったら神社の裏手でケンダンを焼いて終わりとなります。

### 3. 秋田市豊岩・前郷地区のヤマハゲ

秋田市豊岩<sup>とよいわ</sup>は秋田市の南部、雄物川沿いに位置し、前郷、中島、居使、石田坂、小山の5つの集落で成り立っています。この5つの集落ではそれぞれ「ヤマハゲ」の行事が行われています。今回は前郷地区と小山地区のヤマハゲ行事を見ることができました。

前郷地区では1月15日にヤマハゲ行事が行われます。ヤマハゲは74戸全ての家をまわりますが、男鹿と同様に前年不幸があった家は訪ねません。また、新婚の家は必ず訪れます。現在は数人が交替して家々をまわりますが、かつては全戸を3時間くらいかけて歩いたそうです。ヤマハゲは集落内の神社からやって来るということで、常に村々を見守っているということでした。

ヤマハゲ面は13個あり各個人の家で保管しています。地区の公民館にも共有の面が数個保管してあります。この地区の特徴としては、着衣が麻布や木綿布を刺し子したヨブスマ(夜着)であることです。そして頭にモクと呼ばれる八郎湯などの淡水でとれる水草(藻)をかぶり、肌が見えないように厚みをもたせます。腰にはシメナワ様のものを巻き、素足に

ワラグツを履き、ヨシで編んだカゴを背負う場合もあります。

ヤマハゲは付き添いはなく2人1組でまわります。手には何も持たず、また声も出しません。家々では玄関の戸は開けたままにしておき、主人が紋付きを着用してヤマハゲを迎えます。ヤマハゲには主人だけが対応し、他の家族は奥にかくれています。ヤマハゲは音も声も出さずに家の中に入り、中を歩きまわった後、祝い膳にあずかります。ヤマハゲには、みかんや年末に作った切り餅を差し上げ、ヤマハゲはふところに納めます。これらの餅は公民館に全て集められた後、各家々に分配されます。このヤマハゲの餅を食べると息災を得ることができるということでした。

### むすびにかえて

ナマハゲの語源は、冬期間<sup>いろいろ</sup>炉の火にあたりすぎると手足にできる「ナモミ」を剥ぎにくることに求められるとされています。つまり、ナモミができていような怠け者をこらしめるためにやって来るのがナマハゲというわけです。これと同時に悪事や災難を払い農作物の恵みをもたらす行事でもあります。また、年の変わり目にやってきて、人々に新年をもたらす年神としても迎えられます。3地区の行事には、それぞれに特色があり習俗に多少の違いは見られるものの、ナマハゲに対しての基本的な考え方は共通していたと思います。

今回、たくさんのナマハゲ行事の中で、いくつかを見、実際に体験もできたことは大変勉強になりました。ナマハゲ行事で忙しいなか、いろいろ御協力いただいた方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

(いしかわ たかひろ：北上市立鬼の館学芸員)



▲男鹿市協本のナマハゲ面



# 事業日誌

- |  |   |  |
|--|---|--|
| 10/2 福知山議会視察7人 横手市4人<br>盛岡養護学校14人            | 10/27 鬼の館芸能公演 相去鬼剣舞 放送大学45人<br>大森町文化財友の会35人 | 12/23 鬼っこわんぱく講座 8人<br>鬼学講座 三陸町 ~16 16人         |
| 10/3 久慈市松崎園24人13人                            | 10/29 博物館等連絡会議〔博物館〕主幹出席<br>鬼剣舞撮影アクトデバイス     | 1/17 みちのく民俗村まつり会議 主幹出席<br>岩崎上田植え踊り公演           |
| 10/4 長田町婦人部24人<br>岩手県会計協会県中ブロック主管課長研修12人     | 11/7 本荘市商工会20人                              | 1/24 鬼っこわんぱく展 江釣子ショッピングセンターパル<br>1/28 北上幼稚園39人 |
| 10/8 県内青少年センター職員研修                           | 11/9 鬼っこわんぱく講座9人                            | 1/29 県内生活課職員研修会26人                             |
| 10/9 和賀東中PTA41人 都市財政連絡協19人                   | 11/10 壺の沢公民館47人                             | 2/1 博物館等連絡会議                                   |
| 10/10 横手野草会23人                               | 11/12 豊里町文化財保護委員10人                         | 2/2 第7回につばん鬼ッフェスティバル火入れ式<br>世界の仮面展~3/20        |
| 10/12 田老町下荒谷自治会24人                           | 11/14 和賀地区社会教育研修 学芸員石川出席                    | 2/4 郡山市議会視察2人 石狩市議会視察4人                        |
| 10/13 浅沢小学校PTA22人 陵里中学校25人                   | 11/20 高松市議会視察2人                             | 2/5 博物館等連絡会議〔文学館〕主幹出席                          |
| 10/15 オフィスアルカディア現地見学会25人                     | 11/15 大船渡地方振興局16人                           | 2/12 文化財取扱講習会 学芸員鈴木~14                         |
| 10/18 花巻税務署長 読売新聞取材                          | 11/16 鬼の館協議会委員 辞令交付                         | 2/13 高松市議会視察14人 北上幼稚園児40人                      |
| 10/20 鬼学講座23人                                | 11/21 須川焼石山麓リゾート推進協議会13人                    | 2/15 岩崎小学校鬼剣舞引継会 主幹出席                          |
| 10/22 コンコード市前アンパサダー会長<br>ダン・ミルバーガー氏          | 11/23 鬼学講座 19人                              | 2/19 大分県振興局3人                                  |
| 10/23 白石市文化財愛護友の会32人 十和田史談会30人<br>登米水道企業団20人 | 11/25 燻蒸準備                                  | 3/15 鬼の館見学会・懇談会 13人                            |
| 10/24 文化財虫害燻蒸講習会学芸員鈴木・石川出席                   | 11/26 常設展示室燻蒸~28                            | 3/16 鬼の館協議会委員研修:牛の博物館他<br>先進博物館視察              |
| 10/25 大田区議会視察2人                              | 12/6 臨時職員 塚澤真貴子辞令交付                         | 市立函館博物館・函館市立北方民俗資料館 主幹~23                      |
| 10/26 鬼っこわんぱく講座 8人                           | 12/7 岩崎鬼剣舞納会 主幹出席                           |  |
|  | 12/15 エントランス照明球換え                           |  |
|  | 12/17 鬼の館FAX新設                              |  |

# 入館状況

H8. 4. 1~H9. 3. 31 開館日数291日 単位:人

	小中学生	高校生	一般	計
個人	3,027	352	26,301	29,680
団体	406	2	7,389	7,797
無料	712	23	1,671	2,406
計	4,145	377	35,361	39,883

# 利用案内

**開館時間** 午前9時から午後5時まで。  
なお、入館は午後4時30分まで。

**休館日**

- ・月曜日(国民の祝日の場合は開館)
- ・国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は開館)
- ・上記開館の振替日
- ・12月28日~1月4日まで
- ・館内整理日(11月27日~30日)

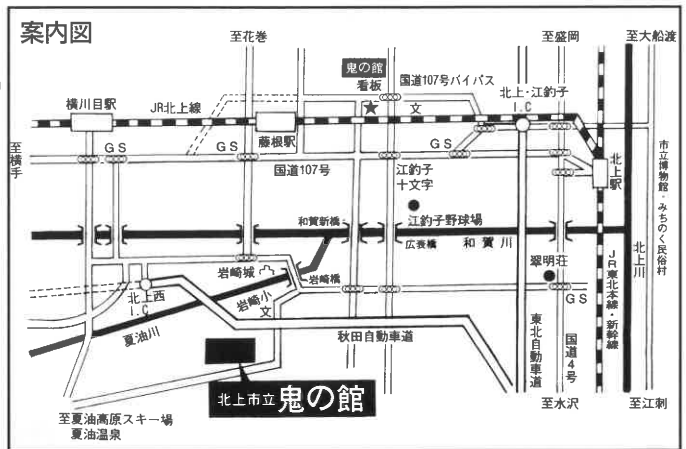
**入館料**

一般 300円 (250円)  
高校生 200円 (150円)  
小中学生 150円 (100円)

( )内は20人以上の団体料金。  
市内の学校の児童生徒が学習活動で申請により利用するとき、毎月第2・4土曜日に利用するときは入館料が免除になります。

**交通案内**

- ・JR北上駅西口よりバスで25分。煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。夏油温泉行(季節営業-5月~10月)「鬼の館前」下車。
- ・JR北上駅より車で20分。東北自動車道北上江釣子I.C、秋田自動車道北上西I.Cからともに車で15分。



## 北上市立鬼の館だより

第6号 1997.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

☎ 024-03 北上市和賀町岩崎16地割131番地  
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508